石川工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	地理

科目基礎情報

科目番号	20024	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	建築学科	対象学年	3
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：高等学校　新地理総合(帝国書院)、新詳高等地図(帝国書院)、CONNECT地理総合(第一学習社)		
担当教員	渕原 智幸		

到達目標

1.地形環境と人間生活の関連を理解して、説明できる。
2.世界各地域の資源・エネルギー問題について理解して、説明できる。
3.気候環境と地形、植生、産業の関わりを理解して、説明できる。
4.工業地域の立地条件と社会環境の関わりを理解して、説明できる。
5.様々な宗教問題、民族問題について理解して、説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	地形環境と人間生活の関連を正しく理解して、説明できる。	地形環境と人間生活の関連を理解して、説明できる。	地形環境と人間生活の関連を説明できない。
評価項目2	世界各地域の資源・エネルギー問題について正しく理解して、説明できる。	世界各地域の資源・エネルギー問題について理解して、説明できる。	世界各地域の資源・エネルギー問題について説明できない。
評価項目3	気候環境と地形、植生、産業の関わりを正しく理解して、説明できる。	気候環境と地形、植生、産業の関わりを理解して、説明できる。	気候環境と地形、植生、産業の関わりを説明できない。
評価項目4	工業地域の立地条件と社会環境の関わりを正しく理解して、説明できる。	工業地域の立地条件と社会環境の関わりを理解して、説明できる。	工業地域の立地条件と社会環境の関わりを説明できない。
評価項目5	様々な宗教問題、民族問題について正しく理解して、説明できる。	様々な宗教問題、民族問題について理解して、説明できる。	様々な宗教問題、民族問題について説明できない。

学科の到達目標項目との関係

本科学習目標 1 本科学習目標 3

教育方法等

概要	世界各地の自然、産業、社会を学ぶことによって、諸外国で活躍できる日本人技術者としての教養を身につける。そして、世界の文化の多様性や、国際問題もしくは各国･地域の問題について考察することで、幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できるようになる。
授業の進め方・方法	事前事後学習など：毎回、授業の冒頭に小テストを行う。内容は主に前回の授業の復習（前々回の復習などを出題する場合もある）。 MCC対応：Ⅲ－C 社会、Ⅶ 汎用的技能、態度・志向性（人間力）、Ⅷ　態度・志向性（人間力）、Ⅸ　総合的な学修経験と創造的思考力
注意点	【評価方法・評価基準】 成績の評価基準として50点以上を合格とする。 試験は中間試験、期末試験の２回行う。 成績評価の割合は以下の通り。 中間試験（25%）、期末試験（25%）、小テストの累計（50%） 単に地名や語句を覚えるのではなく、地図帳や資料集、インターネットなどを活用して、諸事象の位置や空間的な広がりの理解に努めること。 また、それらについて正確に記述できるようにすること。

テスト

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	地図の種類とその活用	地球儀と地図の違いを把握し、それぞれの持つ特性を理解した上で、地図の正しい活用法を習得する。
		2週	世界の地形①（大地形）	地球内部のエネルギーによってつくり出された地形の種類を理解し、その特色について説明できる。
		3週	世界の地形②（小地形）	外的営力によってつくり出された河川地形・海岸地形・氷河地形・カルスト地形について理解し、その特色について説明できる。
		4週	世界の気候（気候要素と気候因子）	気候要素と気候因子について理解し、世界各地の気候が構成される要因について説明できる。
		5週	アングロアメリカの地誌	アングロアメリカの自然地理的な事象と人文地理的な事象について理解し、地域性と諸課題について説明できる。
		6週	ヨーロッパの地誌	ヨーロッパの自然地理的な事象と人文地理的な事象について理解し、地域性と諸課題について説明できる。
		7週	ロシアの地誌	ロシアの自然地理的な事象と人文地理的な事象について理解し、地域性と諸課題について説明できる。
		8週	東アジアの地誌	東アジアの自然地理的な事象と人文地理的な事象について理解し、地域性と諸課題について説明できる。
	2ndQ	9週	東南アジアの地誌	東南アジアの自然地理的な事象と人文地理的な事象について理解し、地域性と諸課題について説明できる。
		10週	オセアニアの地誌	オセアニアの自然地理的な事象と人文地理的な事象について理解し、地域性と諸課題について説明できる。

		11週	南アジアの地誌	南アジアの自然地理的な事象と人文地理的な事象について理解し、地域性と諸課題について説明できる。
		12週	西アジア・中央アジアの地誌	西アジア・中央アジアの自然地理的な事象と人文地理的な事象について理解し、地域性と諸課題について説明できる。
		13週	アフリカの地誌	アフリカの自然地理的な事象と人文地理的な事象について理解し、地域性と諸課題について説明できる。
		14週	ラテンアメリカの地誌	ラテンアメリカの自然地理的な事象と人文地理的な事象について理解し、地域性と諸課題について説明できる。
		15週	前期復習	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	

				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	3	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	3	

評価割合

	試験	小テスト	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	30	50	80
専門的能力	10	0	10
分野横断的能力	10	0	10